

(様式2)

平成21年度鈴鹿市立桜島小学校研修計画

研修主題	「自ら学び 伝えあい 共に高まろうとする子の育成」 ～わかる喜び，考える楽しさ，できる楽しさ～ 算数科を通して
教科・領域等	算数科

1. 主題設定の理由

昨年度は，研修の教科を算数科としてスタートし，各学年が児童の実態と向き合い，それぞれの方法で研修を進めてきた。

具体的な方策として，授業の導入において，児童にとって身近な課題を提示したり，掛け図を用意したりした。そうすることで，児童が興味をもち，進んで授業に参加しようとする意欲をもたせることができた。また，学習の中で操作活動を多く取り入れたことが，算数に苦手意識のある児童や外国人児童にとっても，思考を進める手がかりとなった。

児童から多様な考えを出させる授業を取り入れたときには，わかりやすく板書を整理し，考え方の違いがはっきりわかるような分けかたをした。そうすることで，自分の考えがどれに当てはまるのかよく分かり，さらによりよい方法を選択する手がかりとなった。

また，算数科に限定せずあらゆる場面で，人に伝わるような話し方や，友だちの話を理解しようとする聞き方を意識させるようにしてきた。その結果，話し手の方は，周りの児童に伝えようとする発言の仕方が少しずつ身についてきた。聞き手の方は，どの学年においても，話し手の方を見てしっかり聞こうとする姿になってきた。また，学年が上がるにつれて，自分の考えと比べたり，相手の意図を考えたりしながら聞こうとする子が，少しずつ見られるようになってきた。

数学的な考え方に弱みがある本校児童の実態から，上に述べたような取り組みを進め，成果が少しずつ現れてきたが，まだ次のような課題が見られる。

自ら筋道を立てて考え，解決し，自分の考えをみんなに伝えようとする子が一部にとどまっている。また人の考えを聞いて，「なぜその考え方をしたのか」という疑問をもったり，「こんなやり方もできるな」と自分の考えをもったりする子が，まだまだ少ない。

これらの課題を克服し，数学的な考え方を高めていくためには，普段の授業の中で，自分の思いを伝え合い，互いの考えを比べながら聞き，分かり合えたときの喜びを感じることができるよう場の設定を考えていく必要がある。「なぜ」と疑問に思ったことを素直に口にできたり，わからないことがあったとき「わかりません」とみんなの前で言えたりする，一人ひとりが認め合える学級作りを目指すことで，算数科における数学的な考え方も高めていけると考える。

学級が児童一人ひとりにとって安心できる場所であり，「できた。わかった」という喜びを味わい，仲間と共に考え，高め合っていく楽しさを味わい，さらにみんながわかったという達成感を味わえるよう本研究主題を設定した。

2. 研究内容及び方法

本校の算数科の研修では、コミュニケーションを取り入れ、一つの課題に対して一人ひとりが考えた道筋をわかりやすく伝え合うことで、様々な解き方があることに気づいたり、もっとも解きやすい方法を見つけたりすることに重点を置く。また普段の教育活動全般においても、伝え合い、聴き合う活動を多く取り入れ、コミュニケーション能力の向上を図る。

今年度は、話す・聞くについてのめざす子ども像を設定した。

低学年

- ・ 大きな声で、はっきりと話す。
- ・ みんなの方を向いて話す。
- ・ 発言者の方を見て聞く。

中学年

- ・ 友だちの意見に対して、同じなのか違うのかをはっきりさせてから話す。
- ・ みんなに聞いてもらおうとする。
- ・ 内容を考えながら聞く。

高学年

- ・ 友だちと自分の意見を対比し、深めたり練り上げたりする発言をする。
- ・ いくつかの内容を自分の頭で整理しながら話す。
- ・ 自分の考えと比較しながら聞く

(1) コミュニケーション能力の向上を図る

- ・ 教育活動全般において、自分の思いを自分の言葉で伝え合う活動を多く取り入れる。
- ・ 教育活動全般において、相手の話にじっくりと耳を傾けて聞き合う活動を多く取り入れる。

(2) 子どもたちの主体的な学習が展開できる授業作りに取り組む

- ・ 意欲的に授業に参加できるような導入・発問を工夫する。
- ・ 考え方を視覚的にとらえられるような教具を活用する。
- ・ 自力解決の時間を有効に利用する。(算数が苦手な子への支援)
- ・ より多くの子どもの発言をとりあげられる手だてを考える。
- ・ 多様な考えを引き出したり、よりよい考えに導いたりできる板書を工夫する。

(3) 基礎、基本の定着に努める

- ・ 朝の読書・読み聞かせを充実する。
- ・ 朝の学習を充実する。
- ・ 放課後、長期休業中の「さくらタイム」を充実する。

(4) 教師間の共通理解及び資質向上をめざす

- ・ めざす子ども像やそれに向けての手だてを具体的に共通認識する。
- ・ 研修会参加や先進校視察等を全体に還流する。